

淡路地域における公共交通ネットワーク構築の方向性

現 状

自動車が無いと暮らせない生活出来ない
「移動制約のある島」

公共交通による業務活動・観光が困難な
「来島者に優しくない島」

○高速バスが鉄道の代わりだが、島内での乗降は不可
○路線バスは、主要幹線でも1本/h程度
(運行時間帯も概ね7時～19時)

高速バスの来島は、6.7%
通勤・通学での利用は1.9%

理 想 像

明 石 海 峡 大 橋
開 通 直 後 の 島 内 交 通

地域住民の公共交通による移動を
来島者の公共交通利用の収入で維持

島全体の移動の環境水準を
揃えるため公共交通を一元管理

参考:路線バスの現状
路線バスの便数・運行時間が貧弱
最も便数が多い縦貫線でさえ、大幅なサービス低下

	H10	H29
岩屋～洲本	40便	11便
終発 洲本発	21:30	19:10
洲本～福良	38便	11便
終発 洲本発	22:00	20:15

課 題

1. 生活交通バスの便数増加、運行時間帯の拡大

2. 来島者の公共交通利用促進

3. 一元管理の仕組み等の検討

実現に向けた具体的な取り組み

1. 路線バスの強化・充実・支援

- ①運行拠点の構築(津名、洲本BT、陸の港西淡 etc)
- ②路線ごとの役割の明確化
 - ・4条事業者:主要幹線路線(縦貫線(R28)、西浦線(福良江井岩屋線)etc)
 - ・コミバス(行政):その他幹線路線←主要幹線への集約を担う
 - ・自主運行バス等(住民):幹線以外←上記路線への集約を担う
- ③その他2次交通対策(EVカー、Taxiアプリetc)

2. 高速バスの支援・充実

- ①乗換案内の整備(洲本高速BT、陸の港西淡etc)
- ②ICカードの導入促進

3. 公共交通の観光利用促進

- ①“かわりだねバス”の導入
- ②周遊可能な企画乗車券の検討

4. 島内公共交通の一元管理

- ①複数の事業者の時間、料金、施設の調整
 - ・乗継時間の短縮
 - ・乗継割引制度の導入検討
 - ・バス停等施設の共同利用
- ②一元的に管理する仕組みの検討